



こんにちは、島谷貴子です。2020年も残り僅かとなり、あっという間の一年に驚きを隠せない今日この頃です…。そして、刃文シリーズも今回で最終回となりました。今号では「濤乱刃(とうらんば)」、「菊水刃(きくすいば)」について語らせて頂きます。

語ります 大和魂

主な乱れ刃

これらの刃文がいくつか混ざり合い、数十種類にもなると言われています。

- 湾れ刃 (Vol.33 参照)
- 互の目刃 (Vol.33 参照)
- 丁子刃 (Vol.34 参照)
- 皆焼刃 (Vol.35 参照)
- 矢筈刃 (Vol.36 参照)
- 箱乱刃 (Vol.36 参照)
- 簾刃 (Vol.37 参照)
- 瓢箪刃 (Vol.38 参照)
- 数珠刃 (Vol.38 参照)
- 濤乱刃 (Vol.38 参照)
- 菊水刃 (Vol.38 参照)

いつから、誰が?

濤乱刃とは?

打ち寄せる大波がぶつかり合う様子をイメージして作られた刃文

刃文



いつから? 江戸時代前期(寛文期頃)

時代背景 馬上から降り下すのではなく、一対一での斬り合いへと戦い方が変わっていきました。

代表刀工 二代 津田越前守助広

菊水刃とは?

菊の花が流れ模様になっている刃文



刃文

いつから? 江戸時代前期(元禄期頃)

時代背景 鎖国したため、国内経済の繁栄が見られ、文学や絵画も華やかな文化を表現したものが生まれていきました。そうした中で、国内の刀の購買意欲が減っていった為、ランク付けをし刀の価値を高めていきました。

代表刀工 丹波守吉道、伊賀守金道、河内守国助

東に「長曾根虎徹」西に...

東の江戸(東京)は武士の町で、何よりも*1業物である刀が流行っていました。一方、西の大阪は、商人の町で、業物よりも芸術的で大胆な刃文が流行っていきました。東に業物の「長曾根虎徹」、西に芸術的な「助広」と呼ばれていました。(*1切れ味のすぐれた刀のこと)

~多作だった~

助広は、生涯で1700振りを作刀したと言われています。刀工師が、一か月に2振りを作刀することが可能とされていますが、その計算だと...年間に24本...70年もかかってしまいます!!46歳で亡くなったと言われていますが、一体どんな方法で作刀したのでしょうか...答えが見当たりませんでした。誰かご存知の方、教えてください。

今号で刃文シリーズが最後となりました。私は今までの刃文の中で最も好きなのが「細直刃(ほそすぢは)」でした。刃に沿って綺麗な細い刃文がとても美しく感じられたからです。でも、沢山の刃文を見て、いくつかの花弁が重なっている様が、美しく見えた「重花丁子(じゅうかちょうじ)」の刃文も好きになりました。貴方様はいかがでしょうか?鋼、温度、水の質、地域、流行、刀工の想い等、今現存している一振り、一振りがとても貴重であることが分かりました。これからは、現存する貴重な刀と共に、時代背景も伝えられたらと思います。刀を手に取り、一緒に夕〜イムスリップしましょう!ご意見お待ちしておりますので、どしどしお寄せください。



今号の大和魂はいかがでしたか? 皆様のご意見・ご感想どしどしお寄せください。お待ちしております。

件名:ニュースレター返信と入力して送信して下さい。



最新情報はホームページ <https://daimyou.com/>
 有限会社 大名 広島県尾道市栗原町2-1 3F Eメール sengoku-54jp@hi.enjoy.ne.jp
 TEL.0848-29-3936 FAX.0848-29-3937

届けますっ! 大和魂 2020年12月 Vol.39

経営理念

有限会社大名は「届けますっ大和魂!」を合言葉に日本の歴史、古美術を発信し、貴方(お客様)の趣味を応援するタイムマシーン企業を目指します

ご挨拶

2020年も「有限会社大名」をご愛顧頂き誠にありがとうございました。今年も残すところ、僅かとなってしまいました。2021年は、皆様が体調を崩さず、笑顔で新たな一年を迎えられるよう願っております。来年も引き続き「届けますっ!大和魂」をどうぞ宜しくお願い申し上げます。

とっぷりと 後暮れみし 大和魂

大和魂を見入ってしまって、すっかり日が暮れてしまった...という意味です。

こんにちは。中堀明美です。

早いもので、今年も残すところあとわずかになりました。今年、新型コロナウイルスに翻弄された年となりましたね...幕末から明治にかけて新型コロナウイルスの様に大流行した伝染病「コレラ」をご存知でしょうか?

~コレラとは?~

生水や生ものを介して伝染します。下痢と嘔吐を繰り返し、体中の水分がなくなり、脱水症状をおこし悪化すれば、死をもたらす恐ろしい菌です。発症して2~3日で死に至る事もあった為、コロリと人が死ぬのと、コレラという病名をかけた「狐狼狸・コロリ」と呼ばれていました。

~日本にコレラが!!~

もともとインドのガンジス川、流域特有の伝染病だった。イギリスがインドを完全に支配するようになった1817年、最初の世界的コレラ流行が起きる。文政5年(1822)年8月、日本も中国経由でコレラが初めて確認されました。安政5(1858)年、長崎に入港したアメリカ軍艦の乗組員から発症し、多くの日本人の命が失われました。

人々は、「怨霊のせいだ」「妖怪変化のせいだ」「長崎に停泊したアメリカ人が飼っていたキツネから病気がうつった」と噂するようになりました。お神輿を出したり、獅子頭をかついだりして、この悪疫を追い払おうとしたそうです。



虎の頭部に狼の胴体、狸の巨大な犂丸(みうがん)を持つ、奇怪な動物として描かれた。「狐狼狸」と「虎狼狸」が混ざった妖怪「虎狼狸(ころうり)」。

~日本史上最悪のコレラ流行の年~

明治12(1879)年、コレラは水による感染が多く、夏に活発となることから、「井戸水をむやみに飲まない」「換気によって部屋を乾燥させる」「生ものや傷んだものを食べない」といった、より具体的な対策が広まりました。明治天皇は、流行中、「コレラ撲滅に関する勅諭」を表明。



明治天皇

人生最大のわざわいは病毒あり、いちばん悲惨なのは伝染病だ。倒れる者に、貧しい者や弱い者が多いのはあわれである。病気の原因がわかり、治療方法もできあがって、患者が死ぬことなく、誰もが簡単に予防できるようにし、衛生の成功をおさめてほしい。

という内容でした。

~明治の感染予防法~

感染予防法

- 一 お腹を冷やさない
おんじに、腹巻をする
- 二 熱めない果物、
野菜は食べない
- 三 飲み水は、
一度沸かして飲む
- 四 寝れすぎない
よいにする
- 五 家の中を消毒、
トイレ、水回りを
清潔にする
- 六 大勢で集まらない

上記のような、感染対策をしていました。

コロナウイルスとは病気の特性や医療体制、社会環境が大きく違うけど、予防対策には共通点があると思えました。

日本ではコレラ流行によって衛生観念が一気に高まり「伝染病は公衆衛生の母である」といわれるようになりました。明治17年(1884)ロベルト・コッホ、ドイツの細菌学者は、コレラ菌が伝染病であることを突き止め、その後、ペニシリンをはじめとした治療薬が次々と発見され沢山の命が救われました。明治37年の人口は約4,613万人。コレラによる死者の総数はおよそ37万人(日本のみ)にもなったそうです。これは、日清、日露戦争の死者数約84,000人の数を大きく上回ります…

本当にぞっとする数字ですね。今でも原因や対処法が判明してきた現在でも、コレラは全滅したわけではないそうです。一人一人の注意、意識が強かったからこそ、流行が治まったのだと思います。コロリの時の教訓があるからこそ、日本ではコロナウイルスでの死者が少ないのかもしれないですね。抗生剤が作りだされ、日々平穏な日常を取り戻せると信じております。それまでは、日頃から体調に気を付けて、ストレス発散しながら、困難を乗り切っていきましょう!2021年、コロナ終息と、皆様のご健勝、ご多幸をお祈り申し上げます。来年もどうぞよろしくお願致します。

中堀



ハナエモンの

ターイムスリップ!

今号は前号の北里柴三郎さんと関係の深い現行一万円札の、この方にターイムスリップ!

偉大なる教育者の意外なる一面

福沢諭吉

ふくざわ ゆきち
1835~1901年



中津藩(大分県中津市)の下級藩士の次男として生まれた諭吉は、慶應義塾大学の創設者として有名な方です。その他にも、一橋大学、神戸商業高校、東京大学医科学研究所(北里柴三郎の伝染病研究所)の創設にも尽力した教育者です。

「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らず」という有名な言葉で知られるこの方。実はこの後に「と言えり」という言葉が続いているのを、皆さん、ご存知でしょうか?意味は「と言われているよね」という意味だそうです(笑)この言葉は、アメリカ独立宣言の一節だそうです。諭吉の自伝が現代語訳されている「福翁自伝」。とても面白かったので、その中からお勧めエピソードをご紹介します。



大の酒好き

諭吉は、5合、6合の酒をペロッと飲んでいました。更には、子供の頃から、酒を嗜んでいた。

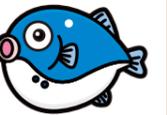
月代(さかやき)を剃られるのが痛痒く苦手だった諭吉少年。祖母が「済んだら、酒を吞ましてやる」という約束で剃られるのを我慢していたそう。そんな諭吉が大阪の適塾(医師蘭学者の緒方洪庵の塾 おがたこうあん)にいる頃禁酒宣言をします。塾の仲間達は3日も持たないだろうと笑っていました。予想に反し、10日、15日も禁酒が続きます。ある仲間が「君は辛抱強い。見上げたもんだ。ただ習慣を急に禁ずるのはあまり良いことじゃない。代わりに煙草を始めたらどうだろう?何か楽しみがないと耐えられないだろう。」との悪いアドバイス。

煙草嫌いだった諭吉に仲間達が煙管、煙草を買ってきてプレゼントしてくれます。悪いので嫌々煙草をふかしていると、好きになっていき、愛煙家に。しかし、酒も忘れられず、禁酒も断念…。愛飲家の愛煙家に進化を遂げてしまいました。



騙して河豚を食わす

諭吉は、河豚の刺身、肝も好みだったらしく、食べていたそうです。河豚を食べることを嫌がっていた塾の仲間に、鯛の味噌漬と言って食べさせ、2時間後くらいに「実は河豚だった」と告白し、医術の心得があるので、消化され、解毒も出来ないと思った相手は、物凄く怒ったそうです。



あれっ?枕!枕!

適塾時代、何かの病気にかかり寝込んでいる時、くり枕と言って座布団か何かをくくった物を枕にして寝ていたそうです。熱も下がったので、普通の枕を使いたいと探したが、いっこうに枕が見つかりません。昼夜を問わず、勉強に明け暮れ、眠くなれば寝る。目が覚めれば、また勉強という生活をしていたので、枕を使ったことがなかったと初めて気づいたそうです。

日本で初めて授業料をとる仕組みを考える

慶応四年(1868年)に蘭学塾を慶應義塾と名付け、教育に専念し始めます。当時の塾は、入学時の謝礼と盆暮の2度くらいに、お金なり品物なりを先生に渡すのが習わしだったそうです。これを諭吉は、このやり方だから教授が活発に働かないのだと、授業料という言葉をつくり、毎月とる仕組みに変えました。これが現在の習慣の元になっているそうです。